

お金の心配から自由になる

欧米のエリート達が使う

陰陽投資術



人は感情で動く生き物

投資心理学



目次

■ はじめに	6
■ 本を読んで投資を勉強すると損するようになる	13
■ 短期で結果を出さないといけない。プロはアマチュアに勝てるか？	14
■ 預貯金しかしていないと不安に襲われる	16
■ 毎日相場をみて観察することが良いことか？	18
■ 株式投資で儲からない人	20
■ いつ買うか、いつ売るかを考えると損する	23
■ 暴落で買えるようなマインドをつくるコツ	25
■ 指標は一切使わない	30
■ マネーとモノの陰陽サイクル	34
■ 国際金融資本を動かす原理	40

- 占星学で見る陰陽サイクル 43
 - 1. 2000年サイクル 43
 - 2. 新システムの胎動 47
 - 3. 世界の真の支配者はユダヤ人 50
 - 4. イスラエルのサポート役が米国だったが・・・ 53
- 陰陽論理で最近のニュースを追いかけると 55
- 恐怖シナリオに影響されたら投資はできない 62
- 陰と陽の大波に乗れない中国 65
 - 1. 中国はしたたかではない 65
 - 2. 中国投資有限責任公司は大損害 66
 - 3. 欧米に翻弄される中国 67
 - 4. 陰陽理論を分かっていない中国 68
- 陰の波の中にも陽の種があるヨーロッパ 69

- 1. EUは陽の極から反転 69
 - 2. 陰転へ 70
 - 3. 陰転の中にも陽の種あり 72
 - 4. 新世代EUの中心国家 74
 - 5. 投資 75
- 陽極を経験し陰極も経験しつつある日本 75
- 1. 陽極から陰転 75
 - 2. 陰極はいつだったか 76
 - 3. 陽転スタート 77
 - 4. 投資対象 78
- 陰と陽が融合した日本民族 79
- グローバル化 83
- 自立した人生を歩むために 87

- プロと言われる人にも依存してはいけない 89
- 投資とどう向き合うのか 92
- 欧米の資産運用 96
- 株で損をする人・損をしない人 98
- おわりに 103

■はじめに

「お金の心配をしないで済む人生を五十歳すぎたら考えなさい。そうすると、普通の人々が百回生まれ変わらなないと悟れないことが、1回の人生で悟れるから。そういう悟りに至った人が、千人も現れると、日本も劇的に変化するよ。」十五年以上前のことですが、筆者が四十歳のころ、ある投資家からアドバイスされたことが、投資人生のスタートとなりました。

あれから十数年。短期売買がいいと聞けば、トイレに行く時間もないというくらいデイトレードをやったこともありました。スイングという中期売買がいいと聞けば、指標を自分で計算するソフトを開発してトレードをやったこともありました。しかし、リーマンショックのような急激な変化も想定しながらも平時の時にも使えるような万能の指標というのはありえないことを知っただけでした。ロシアのロケッ

トを開発していたような世界トップクラスの技術者が米国に渡ってコンピュータで自動売買をする金融工学を開発したのですが、それが破綻したのもありえない事故、想定外の事故が起きた時に対応できなかったからです。また、新興市場がいいと聞けば、投資顧問を採用して、何百万もあつという間に儲けて、あつという間に一千万も損したこともありました。未公開株がいいと聞けば、有名な経済評論家（本を何十冊も書いている）から未公開株を紹介されて買ってしまい、紙くずにしたこともありました。長期投資がいいと聞けば、真似してやってみましたが、資金管理で失敗（買い増ししたいときにキャッシュがない）したこともありました。ふりかえれば、ほとんど儲かっていません。

そこで、何年か前から運命学的な思考を取り入れて、世の中を観察していくと、あきらかに時代の流れが2000年ぶりに変化していることに気がつきました。変化点は、2007年度からはじまったサブプライムショックとリーマンショックで

した。この変化の兆しは、本物かどうか？をみるために、毎日を過ごすようになり
ました。観察を継続して3年が過ぎましたが、変化は本物であり、この変化に乗れ
る投資のやり方でやっていくと、儲かるようになってきました。

具体的な手法は、説明しても真似したくないでしょうから、あえて詳細は述べな
いことにします。なぜならば、長期的な戦いを想定して、すべてのエネルギーを投
入するのが大好きな筆者と読者では個性が異なるからです。筆者は自分の資産を自
分の代だけで増やそうとは思っていません。自分の子供や孫の代までかけて、増や
そうと思っています。そう、財閥的な発想です。しかし、自分の代で稼いで使いた
いという人も多いでしょう。実は、筆者は過去20年にわたって運命学でアドバイ
スをしてきましたが、それをそのまま実行した人は皆無です。みな、「でも……」
と文句を言います。だから、具体的な技法を教えても、真似できないのです。しか
し、ものごとを観察する「陰陽論」の視点が分かれば、読者自身にあった、「投資術」

を発明することは簡単ではありません。自分自身で発見した投資手法は、最強の道具です。世界一の投資家のバフェットさんも、「陰陽論」を深く理解していると推測できます。

筆者は「お金の心配をしないで済む人生」を目指していますが、2008年から2011年までの4年間で、もうたっぷりと優良株の仕込みが終了していて、あとは追い風が吹いてきたのでのんびりと利益が積み上がっていくのを待っています。リーマンショックのときは株価が7000円を切るくらいまで暴落しました。いつが底なのかわからないので、4年間ずっと買い増しを定期的に継続したわけです。百年に一度の金融危機といわれながらも数年でもう大衆は忘れていて、当時は誰も株を買おうなんて思いませんでした。だからこそ買い時だったのです。2011年は、買いの最後の年でした。2015年はまとまったお金が必要になり、アベノミクスとかで株価が2万円を超えるなど急激に上がってきたので、か

なり売却して筆者の乗馬施設にたいして設備投資をしました。そして2016年になつたら、チャイナショックとか英国のEU離脱ショックとかで再び株価は暴落し15000円まで下がってきたので、また買い増しました。

周囲からは、うまくやっていると言われますが、そう思うならやってみればいいのと思います。しかし相場に参加してみると痛感するのですが、勝てないものです。なぜならば、安く買って、高くなったら売るだけが投資ですが、これだけのことが普通はできないのです。人って感情で行動するように設計されているので、高くなったら買いたくなって、安くなったら慌てて損するからという恐怖心に支配されて売ってしまうからです。ふつうの大衆的な感情で生きている限り投資では勝てないのです。大衆的でない一歩進んだ武士的、貴族的感情を持たないと勝てないのが投資です。この書籍では、投資心理学というべき、武士的、貴族的な感情をつくるための理論を紹介していきます。

武士や貴族はもともと国に甘えません。依存しません。逆に国に責任をもっているから武士や貴族なのです。いつの時代も、官僚や国が大衆を優先してきたことはないのです。太平洋戦争が始まるとき、平壤にいた高級官僚や政府関係者は先に帰国しましたが大衆には、治安の問題はないから残るようにと宣伝し、それを信じた大衆は酷い目（若い女性はレイプされ・・・）にあったことを思い出すべきでしょう。国は年金を国民に払いたくないのです。だから、武士や貴族的発想をするなら、年金を国からもらおうという気持ちはなく、自分で死ぬまで自分のことは自分で面倒をみるという気持ちがあるだけです。

こういう貴族的、武士的精神で相場とつきあつていくと、大恐慌が終わったあとには、新しい時代を担うことができる富裕層として誕生できるのです。新しい時代の富裕層は、ただの金持ちではないと思います。水瓶座の時代にふさわしいリーダー

達です。これまでのように何兆円も溜め込んでしまうエゴの塊のような強欲な富裕層ではありません。お金の使い方を知っている穏やかな富裕層です。

実際、目をギラギラさせて落ち着かない投資家や理論武装した世間的には優秀と言われたファンドマネージャーの多くがリーマンショックの金融恐慌で姿を消しました。指標を使わない投資家、陰陽を統合した直感力のある投資家が生き残ったのが現実です。

本書をマスターして、お金の心配をしなくてもいい人が現れたら、そういう人達とお金の使い方を紹介しあうセミナーなどを開催したいものです。お金は貯めるよりも、使うほうがはるかに難しいものです。能力がそなわっていないと、あつという間に散財してしまいます。

■本を読んで投資を勉強すると損するようになる

占いの習得と長期投資の習得はよく似ています。勉強すればするほど、運勢が悪くなるし、相場では損ばかりするようになるのが常だからです。占いは生きている人間を最初に見ないといけません。理論はそれをあとから説明づけするものです。投資もみんなが買わないときに買って、みんなが買うときに売れば儲かるに決まっています。だから、みんなの感情の動きを読んでそれと逆をしないとダメです。投資の勉強をして、みんなと逆の動きができますか？できないのです。人って感情で動く生き物だから。だから正しい感情をつくる勉強をしないとダメなのです。

どんなに高度にみえる運命学の理論も投資の理論も、もう終わった時代の人間や

時代のことを理論化したにすぎません。おなじような時代が繰り返されることはないのです。だから、終わってしまった時代の理論が、これから使えると思っ
てのこと自体もう無理があります。理論は、陰があればやがて陽転する。陽があればや
がて陰転するといふくらいで十分なのです。

■短期で結果を出さないといけないプロはアマチュアに勝てるか？

みなさんは証券会社に勤務する金融や証券のサラリーマン達の心情を知ったほう
がいいと思います。彼らプロは、3ヶ月ごとに実績を追及され、1年ごとに実績次
第ではリストラされたり減給されたりする環境で投資をしているのです。

そう、時間という制約のなかで実績をあげないといけないわけです。これはとっ
ても難しい。短期で売買を繰り返さないといけないからです。機関投資家のほとん

どが、こういう環境で投資をやらざるを得ないのです。さて、24時間、彼らは短期売買を死に物狂いでやっているわけですが、そんな土俵と同じ土俵にあがって、皆さん勝負して勝てると思うのでしょうか？市販されている投資のすぐに儲かる技法というのは、こういう土俵に上がって儲けましようという内容であることを知ってください。

我々アマチュアはプロが束縛されている時間の制約がありません。1年単位で見れば損しても、10年後に利がのつていけばそれでいいのです。というか、**投資は死ぬまでやりつづけて、そして最後の段階で勝たないと意味がないのです**。できれば子孫に相続させるくらいの長期ビジョンで資産形成を考えるべきなのです。1年や2年で利益がでて5年後にそれを上回る損を出してしまえば意味がないわけです。1年ごとに、利益を出し続け、それを死ぬまで継続できるといふ自身は筆者にはありません。だから、あえてプロの土俵には上がらず、アマチュアの立場で長期

投資をやっているわけです。このやり方だと、プロはアマチュアに勝てません。リーマンショックのとき、機関投資家は株を売りました。買っていません。しかし、アマチュアである筆者は買えました。あれから数年が経過していますが、売買などしなくても利がずつとのつたままです。プロである投資家は、毎日朝から夜まで忙しく売買していますが、筆者はほとんど売買していません。やっと2016年の英国がEU離脱するというので暴落したときに、少し買い増しをしたくらいです。

■ 預貯金しかしていないと不安に襲われる

2016年、日銀がマイナス金利を発表しました。銀行が日銀にお金を預けると損するというわけです。我々も銀行に預金すると損するという時代です。おまけに日本の最大手の銀行が国から国債を買う権利を放棄しました。さらにこの銀行が仮

想通貨を発行するというニュースがありました。これはなにを意味するのでしょうか。国債の価値がなくなる、現金の価値がなくなるという天からのメッセージに聞こえます。さらに、政府は物価を上昇させようとやっきになっています。たとえば1億円の預貯金があったとしても、老後を暮らしていくのはもう無理でしょう。30年前は、1億あれば遊んで暮らせるのが常識でした。金利が6%ついたからです。つまり、600万毎年使えるわけです。今は金利はほぼゼロですね。国民は、銀行が仕事していないから頑張らないから、損しているわけです。銀行が頑張つて、預かったお金を運用して金利を高く設定できるように仕事をすれば、1億あれば、遊んで暮らせるので、日本は元気な中高年であふれているはずですよ。

待ったなしで我々1人1人で自分の頭で考えて老後の設計をしないとなりません。なにに投資すればいいのか？投資対象が何十年も価値を高め続けてくれるものがベストです。モノは無理ですね。金にしろ、銀にしろ、何十年もその価値が上昇し続けることはありません。やはり、世界の発展に貢献するグローバル企業が、投

資の対象としてもっとも安心して安全だと言えます。投資はバクチなんていつている人は、投資の基本がまだ分かっていない人です。

■毎日相場をみて観察することが良いことか？

結論を言ってしまうと、相場をみる仕事が仕事ならそれでもいいのですが、トイレに行く時間もなくなるくらい神経をやられます。相場の日本時間が終わっても、海外の相場がオープンするので夜は海外の相場を見て、寝る暇もなくなります。テロがあったりすると相場は急変します。日銀の発表によっても急変します。選挙の結果によっても急変します。大企業の不正や問題発覚でも急変します。つまり、24時間、ずっと相場を見ないとなりません。そんな人生を送りたければやってもいいのですが、相場は利を得るところであり、目的は得た利益を使うことのは

ずです。

お金を使うことに神経を集中しなくなりません。だから、相場を見ない投資法がベストなんです。相場がどんなに急激に変化しても、それで企業価値が急変することがないからです。たとえば、リーマンショックのときトヨタの株価は3000円を切りました。しかし、数年もしないうちに8000円を超えました。この数年でトヨタの価値が2倍になったのでしょうか？販売台数が2倍になったとか、空飛ぶ自動車を発明してアメリカで販売するとか、画期的な変化があったわけではありません。株価は、世の中の雰囲気や感情で簡単に半分になったり2倍になったりするので。だったら、普段から価値のある企業をリサーチしておいて、暴落時に迷わず買うというリズムが一番安全な投資法なのです。

世界に商品を展開している企業は、間違いなく成長します。人口がまだまだ増え

続けるからです。人はどんどん贅沢になってくるからです。一度豊かな生活を味わってしまふと、もう戻れません。なにがなんでも、欲求を満たそうとします。日本人は、もうお金がないからといって冷蔵庫、洗濯機のない生活はしないでしよう。風呂にはいるとき、お金がないからといって、シャンプーを使わないという人もいないでしょう。できれば、品質のいい石鹸やシャンプーを使いたいでしよう。それが経済なのですから、長期で考えれば企業価値は、上がっていくしかないので。

■株式投資で儲からない人

銘柄に関心をあまりもたず、値上がりしている株を早めに買って値上がりしたら売ろうという人は、大きく損して終わりです。相場はボクシングのようなもので、最終ラウンドまで立っている人が勝ちですが、90%以上の人は相場をはじめ

10年以内でやめています。値下がりしているときに、空売りで儲けようとする人も同じです。感情の性質がずるいと思いませんか？人よりも早く値上がりしそうな株を買って、最高に高いところで売ろうなんて、虫が良すぎるというか、そんな天才的なことができるなら、もうすでにやって超大金持ちになっているはずです。

儲かりそうな株を探している人も同じです。儲かりそうな株はみんなが探しているから、もう高い値をつけているのです。儲かりそうな株が、あなたのために安値で放置されているなんて、ありえません。自分に都合のいい考え方は、相場の世界ではタブーです。全財産をもっていかれます。

逆張りがいいとか、順張りがいいとか、理論を探している人も損します。逆張りとか順ばりは、終わってしまったことを理論化したただけのことで、これから起こることを予知するための理論ではありません。

逆に銘柄にだけ関心をもっていて、世界に貢献している企業はどれなんだろうと常にリサーチしている人は儲かります。こんなに将来性のあるグローバル企業がなんでこんなに売られているんだという心情になるから、暴落時にちゅうちよなく買えるのです。暴落が続いていても、買い増しすることはあっても、売る気持ちにはなれません。10年くらいは保有していられるわけです。リーマンショックのときは相場はもう終わったなんていわれたものですが、数年もするとあれはなんだったの？という雰囲気になりました。そうやってテレビが毎日のように株価の高値を宣伝したら、売ればいいのです。

理論は暴落時には買え。これだけでいいのではないのでしょうか。暴落は、かならず何年かに一度はやってくるので。

■いつ買うか、いつ売るかを考えると損する

なるべく安く買おうとすると、底を探し出します。なるべく高く売ろうとすると、天井を探しだします。これって、できないことをやろうとしていることに気がつきませんか？地球上の人間の誰一人として、こんなことは予知できません。なのにあなにはやろうとしていたら、その段階でもう損をする人なのです。

底を気にしてはいけません。暴落したなと思ったら瞬間に、買えばいいのです。ただし予算の3分の1くらいで。底ではどうせ買えないのだから、また下がったら買い増しすればいいやという心情です。こういう心情でいると、だいたいかなり安く買えるものです。売るときも、天井を待ってはいけません。株価が上がってきて、テレビや週刊誌や周囲が騒いでいるなど思ったら、すこしづつ売っていけばいいの

です。天井を待たなくても早めに売ればいいのです。売った現金は、次回の暴落時のために貯めておきます。

この**リズム**を習得すると投資は楽になります。タイミングを探すのではなく、リズムに乗るのです。タイミングを探したいという欲求心理があると、買えなくなるし、売れなくなります。人の感情ってそういう風に設計されているのですから、逆らえないのです。だから、人の心理の動きのからくりを知ってしまうと、底と天井のタイミングを知りたいという欲求があること自体が、もう相場では勝てない欲求であることが分かってくるのです。欧米では、こういう内容を相場心理学としてコーチングしています。日本で市販されている書籍は、タイミングを計算できるよという内容ばかりの本です。

占いと似ていませんか？占いも、未来なんて絶対に分からないのに、それが計算

して分かりますよという本が売れます。

もし暴落相場で買った銘柄が急騰したら、3ヶ月後に売ってもいいのです。長期投資だからといって長期もっている必要はないのです。相場の感情を読むのです。誰も彼もが、その銘柄を買いだしたらもう撤退するのです。応援団がたくさん出てきたのですから、もう撤退です。暴落相場というのは、どんなに業績のいい企業でもいっしょくたになって、株は下がるものです。企業経営者からすれば、つらい時期です。そういうときにこそ、勇気をもって買うといいのです。相場の感情を読むことが、相場のリズムをつくるコツです。

■暴落で買えるようなマインドをつくるコツ

株式相場の歴史をみると、数十年という単位でみると、株式相場は上昇しているのです。戦争があっても、大地震があっても、天変地異があっても、テロがあっても、政治が大転換したとしても、経済は地球規模でみると成長しているのです。地球上に住んでいる人類の多くが、食べて、寝て、着るといふことにたいして、まだまだ満足していないため、経済は拡大していくしかないので。人類がきれいな水を飲むことができ、おいしい食事をすることができ、清潔で着心地のいい衣類を身につけることができ、美容と健康に関心をもつことができ、楽しく暮らせるようになるまで、経済は発展するしかありません。人間の欲望がある限り、経済発展はまだまだ続きます。

日本に住んでいる日本人が元気がないのは、ご存知の通りですが、こんな民族は世界でも日本だけです。安心してください。中国やベトナムやタイに行くと自分の欲望を満足させるために、一生懸命に生きています。欲しいものがいっぱいな

んですね。欧米の先進国に行くと、精神的な満足を満たすために、趣味やボランテニアに一生懸命に生きています。ギリシアシヨックなんて世界を騒がせたギリシアに行くと、昼間からビールを飲んで歓談する光景が見られます。人が自分の欲求にしたがってやりたいことをやっているのと、経済は発展するのです。

なにもしないで今まで蓄えたお金を大事に守って、粗食で死ぬまで我慢して生きるという光景は日本だけのものです。生きることは我慢をすることだと認識しているのが今の日本人ですが、もうすぐこの価値観も死に絶えることでしょう。長期投資で利を得てしまう人が増えてくると、楽しみのために消費するからです。

経済を勉強しても暴落相場で買えるマインドは絶対につくれません。あなたの消費行動や欲求そのものが経済なのですから。

企業の業績を調べたって買いたい銘柄は見つかりません。たとえば、ある企業が

画期的な製品を開発しているのでしょうか。キャノンが世界で始めにインクジェットプリンターを開発しましたが、開発に十年かかっています。この十年間、企業の業績という点からみれば研究開発費が膨らむだけで利益はでないのです。研究開発が終わって、大量生産のなった段階でも工場建設に2〜3年はかかりますし、消耗品であるインクの販売だとか、保守サービスだとか、販売店の教育なども時間がかかります。工場建設には何十億もかかりますが、売り上げにはまだならない期間が3〜4年あります。こうやってみていくと、企業の業績だけをみても、買いたい銘柄は見つからないことが分かるでしょう。

企業の将来性を予測してイメージするしかないのです。この企業のDNAなら、将来はこんなことをやってくれるだろうという想像力です。普段の生活のなかです。そういう企業を発見するのがいいのです。たとえば筆者はトヨタ株を大量に保有していますが、自動車製造会社としてだけ買っているわけではありません。日本で一番デ

イーラ数が多く保守点検の技術があるのがトヨタです。将来介護ロボットが一家に一台使うようになった場合、そのロボットの保守点検はいつたい、誰がどこで、どのようにやるのでしょうか？自動車の保守と点検で培ったノウハウが生きてくるでしょう。トヨタは将来、介護ロボット会社になるかもしれないと想像しているわけです。

市販の投資雑誌を読むと、ROEやらPERやら、そんな指標で割安株を探せるという乱暴な理論が氾濫していますね。開発研究して工場建設して大量生産するまでは、利益がないのですから指標は悪いのです。だから、買わない？おかしな理論です。大量生産して儲かりましたら指標が良くなるから買い時？もう遅いです。長期投資家はもう、指標が悪いときに買って、そういう慌てて買い出す連中が群がってくるのをニタニタしながら見ている段階です。

■指標は一切使わない

2007年の8月のサブプライムショックから始まってリーマンショックで底をうった百年に一度の金融危機。しかし、もう大衆はこれを忘れつつあるような雰囲気があります。しかし、この金融危機のときはあまりにも急激な暴落のゆえに、今までの投資手法が通用しなかったようです。米国の金融派生商品等を活用するファンドヘッジファンドの多くが倒産しました。有名な投資銀行も倒産しました。米国では百以上の地方の商業銀行も倒産しました。今回も、資本主義の構造そのものが変化するきっかけになることでしょう。「今回も」と述べたのは理由があります。前回の構造転換は「石炭」から「石油」へ転換した時期で1929年の世界大恐慌が転換点になりました。その転換点が終わってみると、米国の実業家のロックフェラー家が石油王と呼ばれ、CITIBANKを経営するなど、金融業界も支配してきました。そのCITIBANKが倒産しかかったこと(世界の構造の転換を意味する)

はご存知の通りです。

今回も、石油から新しいエネルギー（太陽光発電・風力発電・原子力発電・ハイブリッドカー・電気自動車など）に転換しているのが、もう皆さんもお気づきでしょう。このようにエネルギーの転換がおこるときには、資本主義の構造も転換するのです。今まで成功したコンピュータを駆使した金融工学的手法はもう古くなりました。新しい手法が発明されなければなりません。世界一の投資家のバフェットさんも、あきらかに投資対象を変化させてきています。

本物の投資家達は、書店に並んでいるような投資理論や経済理論は使いません。実用的でないことを知っているからです。占いも四柱推命の格局用神法とか、占星学のハウス分割手法とか、紫微斗数推命の飛星手法とか、理論的なものは実用では使えないのと同じですね。本物の投資家は、この大きな転換の根源にある「陰

と陽」のバランスの変化を嗅ぎ取っているようです。表面ではなく、変化の深い部分に流れている内面を探って、自身の投資対象も変化させているものと推測されます。今までの経済や投資の理論が使えないなら、PER、PBR、EPS、BPS、MACD、MFI、ROC、RSI、スロー・ストキャステイクス、ボリンジャーバンド、パラボリック SAR など、こんな指標や理論を知る必要もないのです。

複雑で難しい投資理論を習得した米国の投資会社、ヘッジファンドが倒産した事実を理解しましょう。間違った知識を習得してしまったから倒産したと理解しましょう。新しい「陰と陽の変化」を嗅ぎ取ることができれば、投資で勝つことができる時代になったということです。新しい「陰と陽の変化」を嗅ぎ取るコツは、自分が総理大臣だったら、どんな社会をつくりたいか？それにはどんな技術と投資が必要か？と想像することです。自分が主体的になって考えれば脳は活性化しますが、受身になって未来はどうなるのか？と発想していると脳をやられます。

筆者の場合は、

・親の介護なんかしていれば、自分達の家族がやっていけない。だから、介護口ポットなんかあればいいな。

・水耕栽培でモヤシが安く安定生産ができるように、ほうれん草やキャベツもできならしいな。

・もっと電気代が安くなるような、電力会社と契約してくても自家発電でやっていけるシステムが欲しいな。

・除雪しなくてもすむような、道路設計や設備が発明できないものか。

・リッターあたり30km³走る、ランドクルーザーみたいな車があればいいな。

・山奥でもインターネットが使える人工衛星システムがあったらいいな。

・パソコンからキーボードがなくなったらいいな。

・稀少金属（レアメタル）を海から採集できたらいいな。

・灯油やガスや電気を使わない暖房システムがあったらいいな。
・新興国のものすごい渋滞を解決するような画期的な乗り物が開発されたらいいな。

・肌が若返るような医療技術があったらいいな。

・失われた歯が生えてくるような医療技術があったらいいな。

・失われた髪の毛が生えてくるような医療技術があったらいいな。

こんなふうに、将来をイメージして、投資対象を探しています。
次に最低限必要な知識だけを紹介しましょう。

■ マネーとモノの陰陽サイクル

マネーとモノは対立の関係にあります。マネーの価値が下がれば、モノの価値は

上がる。マネーの価値が上がれば、モノの価値は下がる。証券会社に入社すれば、教えられる基本原理です。

たとえば、3000万円で買ったマンションが、3500万円で売れたとしましょう。モノの価値が上がったわけですから、マネーの価値は下がっているのです。もう3000万円で、おなじマンションが買えないのですから。お金を印刷して、ばらまくと、こういう状態になります。サブプライムショック、リーマンショックの後始末で、世界中の国が、お金を印刷して、ばらまいていますから、ほとんど物価が上がる状況になっています。とくに、ヨーロッパや中国では、インフレの傾向が強く、政府が物価を抑えるために懸命です。

しかし、この経済の理論が通用しないのが日本です。日銀や政府が懸命に物価を上げようとしています。がなかなかインフレにならないのです。物価は、下がり続け

ています。筆者が住んでいる四国の家の例で言うなら、10年前に購入したときは、45坪の一戸建てが3000万でした。今は、同じような家を近所に新築で建てても、2400万円です。土地の値段も、住宅の値段も下がっているのです。一千万で購入した土地も五百万でしか売れませんでした。だから、四国の大手デベロッパー、穴吹工務店とジョーコーポレーションが倒産したわけです。

日本はこれまでの金融資本主義の経済理論が通用しない、新時代の陰と陽が融合した穏やかな時代に入っていると推測されます。それも世界に先んじて新しいものに突入していく雰囲気です。過去のデータをもとに記述された市販の書籍をどんなに読んで投資をやったとしても、もう勝てないでしょう。いったい、投資とは何なんだ？ お金とはなんなんだ？ 株式市場って何なんだ？ 根本中の根本から深く考えないとなりません。

上がり過ぎたものは下がる。下がり過ぎたものは上がる。今の時代は、これだけ

で経済の理論は十分でしょう。均衡点という観点から世界を見渡したとき、本来の価値からみて、下がり過ぎているものは何でしょうか？　これが分かれば、投資対象はもう明らかですね。

リーマンショックのとき、多くの日本企業の株価は、PBR（株価純資産倍率）という指標が1倍を下回りました。指標はこれだけですから、心配しないでください。つまり、企業を解散して資産を売却して株主にすべて配分したほうがいいということ。2011年の1月時点でも、トヨタが1.03倍でかろうじて1倍を越えています。パナソニックが0.88倍、ソニーが0.99倍です。これらの企業が継続的に事業を行うより解散した方が株主の利益になる会社だと評価されているわけです。我々の生活に、トヨタもパナソニックもソニーもいらぬというなら、これらの株は投資対象にはなりません。いや、なくなつては困る、外国人が株を買い占めておかしな経営になるのも困るというなら、この状態を「陰の極だ」

と判断し応援するわけです。

もう少し陰エネルギーと陽エネルギーの事例をあげてみましょう。

TVや新聞を賑わしているバブル気味のもは、「陽の極」なので投資対象ではありません。もしやる場合は一度、大きく下落するのを待ったほうがいいのです。現在では、GOLD（金）がバブル気味ですから、投資対象にはなりません。

2006年度は、トヨタが車の生産台数でGMを抜いて世界一になりました。新しいブランドである高級車レクサス（LSの発売）もたちあがりました。利益は至最高でした。書店には、「トヨタ流経営手法」、「カイゼン」なんていう本が山積みでした。民営化された郵便局でも「カイゼン」が取り入れられました。名古屋が異様に景気が良かった頃です。夜のネオン街には、フィリピン人のお姉さん達が、沢山いました。株価も1万円を目指すなんて、新聞を賑わしていました。こんなとき、

筆者の知っているある投資家は、何年も前に仕込んでいるトヨタ株を毎月のように、売却して利益を確定していました。「陽の極」だと感じたのでしょうか。

そして、2009年と2010年、トヨタのリコール問題で、トヨタ株が投げ売りされているとき、にこにこしながら（予想ですが）3000円以下にまで下がった株を大量に買っていました。トヨタからの税収で潤っていた名古屋の河村市長が、税収が減ったのをきっかけに、市議員報酬半減政策を打ち出したのもこの頃です。「陰の極」を通過したのだと感じたのでしょうか。

さて、ここではトヨタの事例を紹介しましたが、トヨタが車（エコカー）だけではなく、エコ住宅、ロボットを含め新エネルギー転換の波の最先端に乗っているというのが重要なことです。また、トップや役員の給与がどのくらいなのかも重要です。新しい陰陽融合時代にあっているかどうか？を見るわけです。経営者が有能だから、何億円もの給与を払う？これは新しい陰陽融合時代にマッチしているとは思

いません。そういう観点から、他の自動車会社、マツダ、ニッサン、ホンダ、スバルなどはどうでしょうか？ ご自身で考えてください。

■国際金融資本を動かす原理

世界の金融相場は、国際的に活躍している金融資本によって動かされています。彼らは三十年単位でものごとを考えて世界戦略を国家レベルでたてて、国を動かし、政治家を動かし、世論を動かしているのですが、陰陽論には忠実に従ってプランを立てています。彼らの考え方や戦略が活字の形で世の中に出回ることはありませんが、世界の動きを見ているとかなりの部分で予想がつくものです。

国際的な金融資本のマネーの動かし方は単純です。マネーがない国にはマネーを入れる。その国が太ってきてバブル状態になると、マネーを取り出すのです。とく

に、マネーを溜め込んでいて、回転させていないと分かると、あの手この手を使つて略奪していきます。

小泉元総理大臣の構造改革もその流れでした。郵便局を民営化して、無理にでもマネーを回転させるといふのが目的でした。

数年前にはお金がないギリシアにお金を貸し付けて、一定の時間が経過したあと破産させるという手法を使って、自分は儲けるといったことまでやっています。こんな手法がばれてきて、米国の国会でも問題になっています。財政が苦しい国を相手に商売をする手法も「陽の極」が過ぎ去って、「陰」の方向に向かっています。世界の大金持ちがこれまで利用してきたタックスヘイブンと呼ばれるシステムが次々に暴露されているのも、陰の方向に向かって流れを加速させるための事件だと推理できます。世界の金融資本のエリート達は、目先の損とか得は無視できるので、三十年という単位では、今の金融資本主義ではもたないと判断すると、自分達がこれまで儲けてきたシステムでさえ、処分してしまう賢さと勇気をもっている

推測できます。

国際金融資本はユダヤ人達ですが、そのなかの肌の白いユダヤ人と言われるアシケナージ勢がこれまで金融の世界を支配してきました。こういう金で世界を支配するとうやり方が気にいらないのが肌が少し黒いユダヤ人と言われるセファラディン勢です。エジプトの内乱と民主化は、大きく見れば、セファラディン勢の巻き返しも見ることができません。

お金の不足している国にお金を入れると考えているなら、その国は北朝鮮、アフリカ諸国ですね。三十年先は、そうなるでしょう。北朝鮮のトップがスイスの大学で金融を学んだのは偶然ではないと思います。お金がたっぷりとあつてそのお金が動かずに腐りかけているとしたら、そのお金を動かそうと考えるのが国際エリート達です。そう日本ですね。預金残高は世界一の1000兆円。それが預金のまま活

用されていないでいる。だから、日銀はゼロ金利政策を続けているわけです。やがて、物価が上がってきたら預金は目減りするので、みんなが投資を始めるようになるでしょう。

単純な陰陽論だけで、世界の動きは説明できるものです。動いてないところは動かし、動きすぎなら休ませるといふ理論です。

■占星学で見る陰陽サイクル

1. 2000年サイクル

西暦とはアフタークリスチャン（AC）のことです。つまり2016年はイエスキリスト以降2016年経過したという意味です。西洋占星術では、この2000年サイクルを重要視しています。地球の歳差運動によって黄道上を移動し続けてい

る春分点が、ちょうど20世紀の後半に、黄道十二星座の「魚座」から「水瓶座」に入るからです。キリスト教には、イエスを魚によって象徴させる慣わしがありますので、魚座は博愛を意味します。

ただし、ここで言う博愛とは、魚座特有の「厳格」さを伴う博愛であり、支配者が被支配者に対する情けのようなものです。平気で奴隷を売買するような白人連中に対して、強制的に博愛を押し付けるような戒めにちかいようなものです。厳格な上下関係が存在するという環境での博愛です。そう、貴族社会と大衆社会とが身分で分離されているのが、西洋文明・キリスト教の世界です。その上下関係という概念が支配する時代が終息し、自由で解放された「新時代」（＝水瓶座の時代）の幕が開いたのが21世紀なのです。

魚座の特徴を挙げてみましょう。

・善悪が厳格に存在する。（戦争の理由に使われる）

- ・しなければならぬことが沢山ある。(目標達成主義になる)
- ・信じなければ救われない。(新興宗教の乱立)
- ・努力しないと成功しない。(実際とは異なる)
- ・だれか1人の優れたリーダーが必要である。(支配者とそうでない者)

この魚座が水瓶座になるとどうなるのでしょうか？

- ・しなくてもいいことが沢山ある。ノルマなし。
- ・信じなくても救われる。
- ・努力してなくても成功する。
- ・善悪はない。
- ・起こることはすべて聖なるもの。
- ・上下関係はない。

水瓶座の人のテーマは、「自分の理想を押し付けると不幸になる。」です。もっと

いえば、「他人の理想をかなえてあげよう。それであなたも幸せになれる。」です。陰と陽が溶け合って、新しいものを生み出している風景だとは思いませんか？ この感覚こそが、これからの時代のキーワードであり、今を読み解く感性であり、投資術の最大のポイントになってくるわけです。

もう分かってきましたね。もはや西洋の社会を支配してきた一神教（ただ一つの絶対なる神のみを信じる）のキリスト教のシステムでは世界は機能しないということが推測できますね。ブッシュ大統領がイラクを攻撃したのも、自分達が善、イラクが悪というキリスト教的思考が根源だということが推測できますね。アルカイダを悪、北朝鮮などを悪の枢軸国と叫ぶなど、悪人を創造するのが今までのやり方だったことも分かりましたね。

この善悪を分離する考え方が、2007年度からはじまったサブプライムショック、リーマンショック金融危機で転換したのです。インチキな金融商品を開発したのは米国。しかし、それをしこたま買って国家が破産しそうなのがヨーロッパ。絶

対に破綻しないとされた金融商品、世界中の優秀なエンジニアを集めて開発した「陽の極」である金融商品が、実はインチキだったと世界中が分かってしまったのです。

だからと言って、金融商品はみんなダメだと思っっているようでは、善悪を分離する二分思考の持ち主と同じレベルです。陰のほうこうに向かいますが、やがては「陰と陽の融合されたシステム」へと移行するのです。では、「陰と陽の融合されたシステム」とは何なのか？という思考をもって、毎日の新聞やTVを見ていると不思議に見えてくるものです。見えてきたら、もうあなたも次の時代の勝ち組です。

2. 新システムの胎動

そこでヨーロッパの世界のエリート達は考えました。いままでの2000年を捨てよう。新しい2000年を作る考え方のモデルはないのか？と探しはじめました。

善と悪を極端に分離する考え方、マナーを極端に求める考え方、持った者が持たざる者を支配する考え方、これらを「陽の極」まで実行した結果、欧米中が金融危機となつてパニックになつたわけです。しかし、この金融商品をあまり買っていないかつた先進国がありました。そう、日本です。

バブル崩壊後、失われた20年といわれながらも、若者が就職があまりなくても、年金が失われても、暴動はまったく起きていません。海外では、暴動が当たり前です。飢えて死ぬ人はほとんどいません。子供達は、ほぼ100%学校に通っています。日本が生み出す製品を見ると、ハイブリッドカーのように陰と陽を統合したような、あるときはガソリンエンジンだけ、あるときはモーターだけ、あるときは統合して、という二分思考の西洋人からみれば理解できない仕組みを作り上げています。癌の原因をウイルスだと考えた西洋医学にたいし、もともと持っていた細胞が癌に変化しただけという日本説のほうが正しいことも最近証明されました。世界で初めてIPS細胞の作製に成功したのも京都大学の山中伸弥教授です。これも進化という

概念しか知らない西洋人には考えられない発想で細胞を退化させたことによる成功でした。日本人は進化があるなら退化もあるだろうと普通に理解します。

ちよつと歴史をさかのぼると、1920年代にもつとも原子物理学が発展していたのは日本でした。長岡半太郎と彦坂忠義の研究は、元素が他の元素に転換するというおそるべきものでした。水銀から金が生成できるという錬金術も発明していたのです。当時の金(GOLD)を裏づけとする資本主義を作ろうとしていたヨーロッパの権力者(ロスチャイルド家)から、その研究に光を当ててしまうと、資本主義そのものが壊れてしまうという理由で黙殺されたと予想されます。現在でも、核融合の研究も日本は一番進んでいると言われています。

もうおわかりでしょう。ヨーロッパの貴族達は、東洋的な考え方を研究し始めています。善と悪を極端に分離しない統合された考え方、マナーを極端に求めない穏

やかな考え方、持った者が持たざる者を支配しない協調的な考え方、つまり、多神教的な発想を研究し始めたのです。将来を作るために、キリスト教を捨てたといつてもいいでしょう。

今は、この大きな転換の真っ只中にあります。だから、持たざる者が持てる者になれる何十年に一度のチャンスなのです。気がついた人だけが、先に行動しています。

3. 世界の真の支配者はユダヤ人

ユダヤ人はまだ、国という境がない1000年以上も前から、王族が使う金を集金したり貸与したりしてきました。どんな権力者（王族達）もどうやって国民から税金を徴収するかに頭を悩ませてきたのですが、その汚れ仕事を請け負ったのがユダヤ人です。現在のマネーの真の支配者達は、ユダヤ人です。米国の支配者も、ユ

ダヤ人です。だから、米国の大学院生の28%はユダヤ人です。

ユダヤ人達の宗教はユダヤ教です。モーセを神とする宗教ですが、キリスト教と
はずいぶん性質が異なります。世界に大洪水が起こったら、ユダヤ教徒は、それを
受け入れます。しかし、ただ待っているだけではありません。水中生活ができるよ
うに水中都市をつくります。あるいは、人間を改造する研究をスタートします。そ
れに対し、キリスト教徒やイスラム教徒は、死んだら天国に入れてくださいと懇願
するだけです。こういう未来を自分達で創造していくユダヤ人達が、日本的な考え
方（陰と陽を融合したもの）を研究し始めているのですから、いつまでも国が悪い
とか、政治が悪いとか、会社が悪いとか、景気が悪いとか言っているようでは、日
本人としてはダメなのです。未来は予知するものではなく創造していくというパ
ワーが投資家には必須です。損するか得するかという感情でいるようでは脳をやら
れて損します。

ところで、ユダヤ人といっても二系統があるのです。ひとつは、東ヨーロッパに住み着いたユダヤ人はアシケナージ（アシケナジム）と呼ばれ、今は驚くほどの金持ち達です。もともとドイツ語圏に住む彼らの多くはドイツ語を話し、ドイツ語圏外に住む彼らの多くはドイツ語の方言であるイディッシュ語を話していました。前近代のキリスト教圏においてユダヤ人（ユダヤ教徒）は政治家、農民など土地の保有と公的な職業に就くことを認められなかったのです。逆にキリスト教が禁じている金貸しを営むことが可能であったため、伝統的に金融業や商業に従事するものが多かったのです。また世界的に散らばり独自の情報ネットワークを持ついたため、現在でもユダヤ人には商人やメディア関係が多いのです。

そう、マナーとビジネスとメディア（TV・新聞）の世界を支配しているわけです。支配といっても、そのやり方は巧妙です。大衆が賢くならないように、TVでは映

画、スポーツ、芸能人のセックスの話題ばかりを放映し、新聞記事は、官僚達が流した情報をそのままコピーするだけです。この構図は、日本でも同じですね。

もうひとつが、セファラディン（セファルディム）系ユダヤ人です。オスマン帝国圏やスペイン・フランス・オランダ・イギリスなどに多く、かつてはラディノー語を話していた。穏やかなユダヤ人達で、驚くほどのお金持ちではありませんが、世界中に基盤をもっているとされています。パレスチナ人もセファラディ系ユダヤ人です。マネーとメディアの力で、世界を支配してきたアシケナー勢を心よくは思っています。

4. イスラエルのサポート役が米国だったが・・・

19世紀後半に入ると古代に祖先が暮らしていたイスラエルの地に帰還してユダヤ人国家を作ろうとする運動（シオニズム運動）が起りましたが、これもアシケナー

ジ勢によるメデイアの宣伝広告の結果でしょう。この運動は第二次世界大戦時のホロコーストをきっかけに盛んになり、後のイスラエル国家建設に繋がっていくことになりましたが、この建国のマネーを調達したのは、もうお分かりですね。アシケナージ勢です。そのアシケナージ勢が、米国で、マネーとメデイアの世界を支配しているということは、米国は、イスラエルの保護者なのです。

この保護者の立場が、2007年度からはじまったサブプライムショック、リーマンショック金融危機で転換しつつあるのです。米国内に住んでいる国民が、仕事を超越せ、飯を食わせろ、戦争で死んだ息子を返せ、若者を戦争でもう殺すな、と声高に叫んでいるため、もうイスラエルにかまっている余裕がないわけです。その結果、何が起こったか。そう、オバマ大統領がノーベル平和賞を受賞したわけです。核ミサイルの縮小を叫んでいるわけです。

たとえば、北朝鮮が韓国と銃撃戦をまじえても、大きな戦争にはならないのです。イスラエルがイランをどんなに挑発しようとも、大きな戦争にならないのです。今

現在の米国は、戦争をしている余裕がないからです。米国が世界各国で原子力発電を売っているのも、原子力発電が稼動している国に、戦争をしかけて発電所が破壊されて核をばらまいた国があるとする、戦争をしかけた国は世界中から非難されるからだと推測できます。米国は、「大きな戦争は、もうしない、望まない」と言っているわけです。

■陰陽論理で最近のニュースを追いかけると

あっちが正しい、いやこっちが正しいという議論は、論理思考ではありません。ただの感情の遊びです。この感情の遊びは意外に大衆には売れます（視聴率が上がる）。政治家同士のやりあいがTVで繰り返し放映されるのもそれが理由です。そんな光景ばかりを見ていると脳がやられます。TVのスイッチを切りましょう。論

理的な思考とは、Aという現象とBという現象があった場合に、新しいCという結論を想像する力です。欧米では、これをソリューションといい、日本語では論理力といいます。議論は感情。ソリューションは知性です。

最近のニュースの事象を例をあげてみましょう。そして、新しい事象を想像してみましよう。参考までに筆者のシナリオを少し記しておきますが、自分だけの投資シナリオが想像できるまで、深く陰陽的思考を続けるべきです。人の真似をしても絶対に儲かりませんから。自分でつくりあげたシナリオでないと、大切なお金は投資できないものです。筆者は、来月の生活費だけを残してあとは、すべて投資にまわしていますが、こんな大胆（深く思考しないでいる周囲はそう言いますが、私自身は平気です）なことは人真似では絶対にできないのです。

・2008年から2010年の3年間、個人は売り越し、外国人は買い越し（日経）

なんで個人は売ったの？ 外国人は買っているのに？ というメッセージ。
外国人は常に勝ち、日本人は常に負けているという定石がある。

・世界は日本経済に無関心（繰り返し2008年から2010年に日経が報道）

政治には無関心、経済には関心があったことが証明された。

日本株をリーマンショックで買ってしたのは外国人だった。

日経がどれだけミスリードをする新聞かがもう証明された。

・尖閣諸島問題（繰り返しTVが報道）

東アジアに富が集中するのを防ぎたい連中が仕掛けたものか？

中国と日本が険悪になるのを期待する連中がいる？

・強烈な円高 1ドル120円（2007年度）から80円代へ（繰り返しTV・

日経が報道)

円を買いたい外国人がいるから、円をまず求めないといけないということか。円を買って、その円をどう使うのか？を推理する。

円高だから、企業が儲からないという馬鹿の一つ覚えの方程式からは卒業すべき。

・日銀が5兆円で資産買取り(日経 NHK)

日本株を政府が責任もってしばらくは上げていくという宣伝広告か。

日本株が陽転のサインか？ 陽転させないと消費税論議にもっていけないからか。

・外資系投資銀行が、日本に再び支店を創設(日経)

ゴールドマン・サックス シテイグループ バンク・オブ・アメリカ など

社員も大量に採用。

世界のマネーが日本株に集中するという宣伝広告か？

日本株が陽転のサインか？

・日経平均ETFを米国証券取引所に上場（日経）

米国人が日本株を買いたいと言っているというサインか？

日本株が陽転のサインか？

・店頭での金（GOLD）の売買、200万以下でも身分証明が必要になる？（N
HK）

脱税の温床になっていると報道。

金で儲けている奴が沢山いるという宣伝広告が狙いか？

もうそろそろ陽極だよというサインか？

- ・日本国債の格下げ スペインよりも悪い？（日経 NHK）
円と債権の売りを誘っている。
国債を売って手にした（円）は、どこに流れていくのか？を推理する。
- ・FX業者が儲かっている顧客は10%と報道（日経）
FXでは儲けにくい。だったら、別の投資をやれというメッセージか？
- ・ダボス会議では、主役なき時代の混沌（日経）
米国はもう主役ではないという宣戦布告。
FRB（米連邦準備制度）はもうドルを印刷してばら撒くな！という忠告。
ヨーロッパはインフレに苦しむ。マネーの管理体制強化への布石？
もうマネーを印刷して景気対策とする手法は終わりという決意（陰極からの

脱出)

・ウイキリークスの国家機密情報の公開(戦後から昨年までの情報)

おそらくは第二次世界大戦後に決められた構図をいったんリセットしたいという勢力がやっていると予想。

日本では米国に追従した自民党の国会議員や総理大臣の情報がリークされそうである。

・2013年度問題(年金受給者が過去最大 年金を払うキャッシュがない?)

消費税増税 景気対策 株価対策 国有資産売却 外資の呼び込み 国債を

中東に販売

などがすべて関連しています。これから毎日の事象をつないでシナリオをつくらないといけない事案です。

・2016年 イギリスがEUを離脱すると世界経済がおかしくなるという恐怖ニュースが流れる。

こうやってニュースを追いかけるときに注意すべき点は、恐怖感情をつかまれたら脳をやられるということです。

■恐怖シナリオに影響されたら投資はできない

TVや新聞は、人々を恐怖に陥れるのが得意です。伝統的に、ジム・ロジャーズなどの有名投資家を使ってわざと恐怖シナリオを流して人々を恐怖に陥れます。恐怖は、もつとも人間が洗脳されやすい感情であることを彼らは知っているのです。

たとえば、2011年1月に行われたジム・ロジャーズの講演会では次のように記載されていました。

・世界経済

2～3年以内に、債権国と債務国の不均衡により、通貨混乱が起こるだろう。食糧価格は上がっていく。2～3年以内に食糧危機が起こるだろう。社会的混乱が起き、いくつかの政府は崩壊するかもしれない。それが、さらに通貨混乱を生む。インドネシアやエジプトで崩壊が起こっている。

・日本

人口が減っていること、財政赤字が問題。100年後には日本人は一人もいないかもしれない。今は日本への投資を増やしたいと思っているが、5～10年後は疑わしい。農地の規制などは変えていくべき。こんなふうに記されています。ジム・ロジャーズは米国の商品取引所の宣伝マンの役目を果しているようである。バイクーで世界をまわり投資対象を自分の目で見探していた頃の鋭い感覚はもうないよう

です。超有名人なので芸能人のたわごとだと思っていればいいレベルです。

恐怖の感情を刺激されない方法は一つだけです。もっとも強い恐怖を味わうことで「無恐怖」になれるのですが、一人でこの恐怖を味わって通過するのはとても苦しいことです。筆者は、2009年のリーマンショックの前後で、日本株を買いまくっていましたが、全財産を失うのではないかという恐怖に24時間、1年間くらいは悩まされました。少し株価が戻っても、平安はおとずれません。メディアが二番底が来ると言っておるからです。再びあの恐怖を味あうのかと常に脅えています。しかし、それから逃げずにいるといつの間にか、平安がおとずれ、株価の下落にたいしても恐怖がわなくなりしました。恐怖に立ち向かうのではなく、なにもしないでいると去っていきます。

無恐怖になると、自分が特別な存在であろうというエゴも消滅します。非凡でありたいというエゴも消滅します。人気者になりたいというエゴもなくなります。生

きること自身が、エネルギーの遊びであり、損しても得しても遊びであり、リスクとダンスをするという、人生の探求者のような気持ちになれるのです。実際に、何十年も投資で食べている人で利益を出しつづけている人は、こういう境地の人ばかりです。

この最大の恐怖を通過しないで、損とか得とかにしがみついたまま逃げていると、やがて脳をやられます。

次に陰陽理論で世界を見てみましょう。

■陰と陽の大波に乗れない中国

1. 中国はしたたかではない

中国という国は果たしてしたたかな国でしょうか？ 実際には現地でビジネスを

やっている人の話しを聞く限り、ワガママかもしれないけれど精神的には未成熟だと感じます。国家という枠組みよりも、信頼できる人間関係を重視する雰囲気があり、まだまだ国家としてのシステムが整備されていないのでしよう。はっきり言えば、好きか嫌いかという二分思考でものごとを判断しているので、どうしても西洋人に手玉にとられやすいと感じます。陰陽道を発明し、運命学を発展させた国とは思えない未熟さがあります。外交面でも、その未熟さは出てくるはずですよ。

2. 中国投資有限責任公司は大損害

中国投資有限責任公司（C I C）という政府系投資ファンドがあります。世界一ともいわれる同国の外貨準備資金を有効に活用するため、主として海外の金融組合せ商品の取引を行っています。投資の結果をみると悲惨なものです。

たとえば、2007年5月、海外での初の投資案件として、ブラックストーンの株式1.1億株を取得しました。購入価格は1株29.605米ドル、購入総額は

約30億米ドルでした。最安値となった13.82米ドルで計算すると、保有株式の時価総額は50%減の16億米ドルとなります。次に、2007年12月には50億ドル出資してモルガンスタンレーの99%を保有しています。こんなニュースが日本経済新聞を賑わせていましたが、さて、2008年9月のリーマンショックで、これらの投資銀行が倒産しかかったことは、皆さんの知っている通りです。

3. 欧米に翻弄される中国

さらには、世界中にモノを輸出する中国に、富が蓄積されるのを気持ちよく思わない欧米勢は文句をつけるわけです。あの手、この手でお金を奪おうとするわけです。中国の2兆8000億ドル以上という世界一の外貨準備資金のうち、ドルを大量に持っているわけですが、ドルが下落していくと、国家の富が減額されるわけです。

それで中国は、ドルを売ってユーロを買うことをやったわけです。ユーロを買っ

て、一安心だと思ったらギリシアショックでユーロが下落したわけです。さらに、EU全体が、破産する国家が出てきそうだということになると、手を差し伸べないわけにはいかなくなりました。もちろん、ヨーロッパの危機が深刻化して元高ユーロ安が続くと、モノが売れにくくなり、中国経済の成長を支えるのは輸出に打撃になるという心配もあったのでしよう。

2010年10月にギリシャを訪問した際、温家宝首相はギリシャの国債の購入を表明しました。次の首相の最有力候補といわれる李克強副首相が、2011年の新年早々にスペインを訪問して、首脳会談で中国がスペイン国債を買うことを約束しました。スペインは大歓迎して李克強副首相と国王との会見もセットするほどで最高首脳級のもてなしでした。

4. 陰陽理論を分かっている中国

こんなふうに、時系列で追っかけていくと、中国が国家資産として保有している

ドルが安くなって富を奪われ、今度はあわててユーロを買ったら、ユーロも安くなって富を奪われ、さらにはヨーロッパの国々の国債まで買わされることになったわけです。米国と欧州が交互に、「陰の極」になるぞと中国を脅すことで、米国も欧州も中国の富を合法的に奪っているというわけです。欧米のほうが生かしたたかに、中国の富を奪っていることが分かるでしょう。

■陰の波の中にも陽の種があるヨーロッパ

1. EUは陽の極から反転

EUは、発効時の6か国から、2007年1月までに27か国にまで増えています。オーストリア ベルギー ブルガリア キプロス チェコ ドイツ デンマーク スウェーデン エストニア フィンランド フランス ギリシャ ハンガリー アイerland

イタリア リトアニア ラトビア ルクセンブルク マルタ オランダ ポーランド ポルトガル ルーマニア スロバキア スロベニア スウェーデン イギリスです。いままでは、無理に加盟国を増やしてきたという経緯があります。

つまり、「陽の極」に向かってきた時代ですね。しかし、2007年8月以降のサブプライムショックで明らかになったのは、米国で発明されたインチキな金融商品をしこたま購入してバブル気味であったのは、むしろヨーロッパ勢だったということです。国家が正直にその不良債権の金額を公表できないくらいに損害を被ったのです。そこで、最初にボロがでた（生贄）のが、ギリシアです。つまり、2010年のギリシア・ショックです。それを契機にして、スペイン、ポルトガルなどの南ヨーロッパ諸国の財政不安が表面化しました。また、バルト三国と呼ばれる北欧のエストニア、ラトビア、リトアニアにも深刻な経済不安が存在します。

2. 陰転へ

そこで、2010年の秋くらいから、あたらな動きが起こつてきています。強い「陰の極」に向かう兆しです。その一番目は、欧州版IMFの設立でしょう。ヨーロッパの国が財政破綻におちいった場合、これまでの米国主導のIMFではなく、ヨーロッパは自分達で整理しようとする動きです。これは、財政破綻に陥った国を助けるという名目のように聞こえますが、これから数年間は財政破綻する国が出てきて当然なので、その破綻処理を淡々と行うための準備だと理解できます。

ギリシアの場合は、とりあえずドイツやフランスが助けるポーズをしましたが、今後は、冷静に切るべるものは整理するという動機が見えてきます。その証拠に、政府から独立した債務委員会というのを作ろうとしています。政府以上の権限をもたせ、各国の財政を厳しく監視し、いい加減な財政運営をする国は強制的に整理していくという意思が隠されています。

こうやって見ていくと、陰の極へ向かうのは、悪いことのように見えますが、そうではありません。これまでは、めちゃくちゃにEUを拡大してきたわけがまわってきたので、これからは、ドイツなどの財政の健全な国が中心となって、少数精鋭のEUを目指すということです。整理された国は、ユーロも使えなくなり、勝手にやっていきなさいというリストラ策なのです。強い国だけが集合するEU、そして米国が支配する世界を変えていくという、「陽転」の種を植えてつけているのです。

2016年にイギリスがEUから離脱するというのも陰転への大きな動きです。

3. 陰転の中にも陽の種あり

米国が発明した金融資本主義は、物価が常に上がっていくというインフレを期待し、インフレを前提という経済です。その経済理論の源がアメリカ合衆国ニューヨーク出身のマクロ経済学者であるフリードマンです。フリードマンは、マネタリズムを主唱してケインズ経済学を批判し、各国の経済政策に大きな影響を与えました。

アメリカの共和党支持者で「レーガノミクス」（新自由主義の提唱者）の生みの親です。

イギリスのサッチャー政権にもその理論は採用されました、日本では中曽根康弘内閣以降の細川護熙内閣までの「強い通貨（円高輸入増）で物価を抑える政策にも採用されました。1976年、ノーベル経済学賞を受賞しましたが、フリードマンにとつての理想は、規制のない自由主義経済であり、従って詐欺や欺瞞に対する取り締まりを別にすれば、あらゆる市場への規制は排除されるべき（自由放任主義）というものです。

日本ではTVによく出てくる竹中平蔵などが、この支持者ですが、この理論は、もう破綻しています。ヨーロッパ中が、もう物価の上昇はいらないと叫び始めています。先進国のなかで、物価の下落（デフレ）が続いている日本を見習えという声まで、聞こえてくるのがヨーロッパです。つまり、米国主導の経済システムからの、転換をヨーロッパ勢は、企んでいるといえましよう。

4. 新世代EUの中心国家

第一次世界大戦で敗戦しドイツは、ベルサイユ条約で巨額の賠償金（1320億金マルク）を払わされることになりました。現在の金額にして「数十兆円」と言われています。1921年4月29日のロンドン会議において決定したベルサイユ条約がこれです。しかし、2010年10月4日、ドイツは89年かかって、すべての支払いを完了させたのです。

この時点で、ヨーロッパの歴史が変わったと思われず。実際、2010年、ドイツはユーロ安のおかげもあって、世界で売れる商品を沢山もっているドイツ経済は絶好調でした。米国を中心とする自由放任主義の金融資本主義に意義を唱えだしているのも、ドイツです。ドイツ人が稼いだお金を、なんでギリシアなどの支援にまわさないといけないのかというドイツ人の声が聞こえてきそうですね。財政状況の悪い国を整理しながらも、ユーロ安を満喫してホクホクしているのがドイツなの

です。だから、新しいEUを作り出すのに十分なお金と動機と技術をもっているのは、ドイツです。

5. 投資

まだまだ淘汰される国家の整理という陰極に向かう大波が押し寄せてきますが、陽の種は巻かれつつあるので、優良企業は大幅下落したら買うという姿勢でいるべきでしょう。

■陽極を経験し陰極も経験しつつある日本

1. 陽極から陰転

日本は1980年代のバブルで「陽極」を経験しました。タクシーを止めるにも、

1万円札のチップを手にとってお札をばらまくように景気が異常に熱していた時期でした。デイスコが大流行し、ゴルフの会員権が何千万もし、50平米の都心のマンションが1億円という値段がついた時期でした。それが、1991年にバブルの崩壊（陽極から陰への転換）です。その後、『就職氷河期』や『土地価格の下落』など、日本経済の停滞が長期化し、失われた20年に突入したといわれます。その陰へ向かう時期も、そろそろ終わったのではないかと予想します。

2. 陰極はいつだったか

2001年4月の自民党総裁選に、橋本龍太郎、麻生太郎、亀井静香を打ち破った、清新なイメージの小泉総理の登場から陽転の準備が始まったのです。「自民党をぶっ潰せ」で有名になり、自身が退陣してからしばらくして、本当に自民党はつぶれました。2009年8月30日投票の第45回衆議院議員総選挙にて、民主党は単独政党としては史上最多の308議席を獲得しました。この民主党の勝利は、「陰

の極」から抜けて、「陽転」が始まった瞬間だと感じます。間違わないで欲しいのは、民主党のほうがいいとか悪いという議論ではないということです。「陰極」を抜けるときには、それにふさわしいイベントが起こるので、そのイベントは何なのか？という思考が重要なのです。

3. 陽転スタート

では、また同じように陽へ向かってバブルが始まるのか？といえば、そうではありません。新しい次元の陽の流れを作っていくか、日本はだめなのです。日本を除く先進国は、これからまだまだ陰の極に向かいます。日本だけが、反転しているのです。少子高齢化（これから中国も米国をのぞく先進国はみなこの問題を迎えます）にふさわしい、陽の流れを作っていくのが日本人の仕事なのです。

高齢者が、お金を溜め込んで使わないのは陰の極ですからダメです。若い人が生

き甲斐を見つけやすい国にするために、使うべきです。高齢者も若い人と触れ合っていて、若い人を育てることで楽しい人生になるはずです。足が痛い、腰が痛い、あつちが悪いと病氣自慢をして、老人ホームに入って、養鶏場の鶏のように扱われて、死を待つのではなく、楽しむ義務があるのです。日本の高齢者は幸せか？という観点で外国人は観察しているのですから。

70歳以上で、お金を溜め込んで、古くて汚い家に閉じこもり、文句を言いながら生きている老人を若い人は軽蔑しています。こんな人間にはなりたくない。若い人は、陽の極を知らずに生まれ、陰の極しか知りません。そんなかで、新しい陽の流れを作っていく使命があるわけです。おそらく、陰と陽が融合した、穏やかな陽の流れになるはず。もう、物質欲に振り回されることはないでしょう。

4. 投資対象

この陽の流れに乗っている企業が日本にはたくさんあります。新エネルギー、新素材、環境問題、食料問題などなど、新しい時代を作っていく技術のある企業が沢山あります。あきらかに、そういう流れにのっている企業は、リーマンショックからは完全に立ちなおっています。2011年度は、個人投資家が、これらの企業の株を買っていい最後の年になるかもしれません。未来を読める人は、2009年にはもう買い終えて、今はただじっと待っているだけです。

■陰と陽が融合した日本民族

日本の風土は、風水的にみても、陰と陽が統合したような形になっています。北海道は頭、心臓は関東、腰は関西、足は吸収、東側が陽的で、西側が陰的です。ポリネシア民族がもとの倭の国の民族ですが、古代から大陸の民族を次々と受け

入れ西暦500年頃は、多国籍で多言語が交じり合っていた国が日本です。関東は、高句麗の影響が強く、ちよつとお高くとまっています。中部や関西は新羅の影響が強く人情っぽく、九州は百済の影響が強く、鉄鋼業も百済人から持ち込まれたものです。

明治維新以降は、西洋の文明も取り入れ、なんでもかんでも溶かしてしまう溶鉱炉のような民族が日本人です。つまり、陰と陽が融合した民族であるので、自己主張をする西洋人はワガママに見えますし、理屈だけで考え、直感的なものごとを見ない西洋人も幼稚にみえてしまいます。

世界で最初に飛行機を飛ばしたのはライト兄弟ではなく、愛媛県の日本人です。松山空港には、その飛行機の模型があります。理論物理学の世界でも、最初に原子核の構造を説明したのは、日本人です。戦時中は、ウランが日本では採れないので、トリウム原爆を研究していた経緯もあります。トリウムは、福島県で採集できますが、米国人から見れば、どこまで実用化するのか恐怖に思えたはず。だから、

日本を原爆でやっつける必要があったのですね。これ以上の原爆の開発はするなという見せしめです。

こうやって見ていくと、随分、TVや新聞の風潮と温度差があることがわかるでしょう。日本人をもっと、阿呆にしないとイケない。こういう強い方針で、戦後の日本のシステムはGHQが作ったわけです。教育がつまらなくなっただのも、官僚が威張って民間人の自由を束縛するのも、自民党の背後に米国のCIAがいるのも、理解できますね。

ただ、もうこの体制もバブルの崩壊で「陽極」を通り過ぎました。政治をみると、だれも希望は持てませんね。つまり、今は、「陰の極」も、通り過ぎようとしています。これからは、「陰と陽が融合」した新しい陽の流れがやってきています。ハイブリッドカーも、米国のものは、発電機をつんだ電気モーターという設計です。エンジンの役目は、発電機だけです。融合できないのですね。米国人は、まだ、そういう陰と陽が分離した発想しかできないのです。

だから、トヨタのハイブリッドカーは米国にとっては、驚異です。驚異だから、2009年と2010年は執拗に、リコール騒ぎという原爆を落としたわけです。この騒ぎのおかげで、トヨタの株価は急激に下落しました。しかし、株を売ったのは日本人の個人投資家です。株を買ったのは外国人の投資家です。日本人はトヨタの株は売っても、トヨタのプリウスは猛烈に買いまくって、2010年度の日本で一番売れた車になりました。日本で一番売れる車を製造している企業の株を、日本人は損したらどうしようと慌てて売ったわけです。こんな騒ぎであわてて株を売るようでは、投資家としてはやっていけないでしょう。幼稚な米国人の戦略にはまっただけですから。

毎日毎日、NHKのニュースでしつこく繰り返して映像を見せるニュースは、大衆を洗脳するワナであることが多いのです。9・11の同時多発事件もそうです。あれは、米国の自作自演であることがもうばれています。ビルにしかけられた爆弾

でビルは崩壊したのです。目的は、アルカイダという敵を創作することで、戦争ムードを盛りあげることでした。実際イラク戦争になりましたね。

尖閣諸島問題もそうです。日本と中国が険悪になって、得するのはいったいだれでしょうか。あの手この手を使って、東アジアに富が集中するのを妨害する連中が誰かは、もう想像がつくでしょう。

TVを見る場合は、ぼくとしてみると、いつの間にか洗脳されてしまいます。投資で儲けようとするなら、メディアを牛耳っているのは、愛国心のある人ではないということをしつかりと覚えておくべきです。繰り返される映像は、洗脳の道具であることを深く理解しておいてください。

■ グローバル化

グローバリゼーション（英：Globalization）は、社会的あるいは経済的な連関が、旧来の国家や地域などの境界を越えて、地球規模に拡大して様々な変化を引き起こす現象である。と定義されているが、人類歴史という大きな視点、大きなサイクルでとらえてみると、国という「境」、民族という「境」を溶解する現象だと言えます。今から1500年くらい前は、国家や民族という「境」が明確ではありませんでした。騎馬民族は、簡単に民族の壁を越えていろいろな異民族を支配していました。倭の国だった日本も、新羅や百済や高句麗の王族達を、大量に受け入れて支配者層になっていきました。彼らが、大化の改新をし、国名を日本として、日本書紀を作らせたのです。

それから、1500年もの間、国と国の「境」は明確になり、それが紛争の種になり、戦争の道具として使われてきました。しかし、もう戦争はいらぬ。これ以上子供達を殺さないでくれという声が、戦争で経済をまわしてきた米国から起こりました。

2008年11月4日に行われたアメリカ大統領選挙で勝利したオバマ大統領の出現がそれです。大きな世界史のサイクルという観点からみると、「陽極」から「陰」への転換した瞬間だと言えましょう。戦争で経済をまわすという表現が理解できない場合は、たとえば、イラク戦争は、米国が開発したミサイルの大量の在庫を処分する経済政策だったという表現のほうが理解しやすいかもしれません。そして、その戦争の請求書押し付けられたのが、日本など米国の同盟国だったのです。結局、大量破壊兵器もなく、今となっては間違った戦争だと認められたわけですから、小泉元総理を証人喚問して当時のいきさつを証言させたいと思います。また、戦争で経済をまわしたい連中がネオコンといわれ、米国の軍事産業の経営者、株主達です。

日本のグローバル企業、たとえばホンダなどは日本よりも海外で生産する車のほうが3倍も多いのです。ニッサンもトヨタも似たようなものです。もう、これらの企業は日本の企業とは言えません。現地に開発拠点をつくり、技術者を育成し、工

場をつくり、労働者を雇い、社会をつくっていきます。すでに、企業は、国という境、民族という境を溶かしていると言つてもいいでしょう。10年後、北朝鮮がまともな国家になり、国交を回復して法人税を5%にするから、工場を作つて欲しいと懇願されれば、多くの日本のグローバル企業は、工場を移転することでしょう。若くて、世界一人権費が安く、真面目に働くのですから。日本人の大衆が、メディアに洗脳されてけしからんと叫ばない限りはという条件がつきますが。

世界的な「陰」の方向への流れが、国という「境」、民族という「境」を溶解することだと考えれば、グローバルゼーションは必然であり否定するものではないどころか、「地球の主」の願いかもしれないということが理解できます。では、「地球の主」の願いにあった会社経営をしている企業は？という観点から企業を見るのです。投資対象はもう見えてくると思います。

■自立した人生を歩むために

私は運命学が本業ですが、長年運命学をやってきて、運命学だけでは人は開運しないという結論をもっています。

サラリーマンであれば会社に依存できる時代はもう終わっています。安心して定年まで働ける社会環境ではありません。定年まで働いたとしても、退職金があるのかどうか不明です。たとえ退職金があったとしても、老後の生活に十分な保証はありません。年金の支給される年齢も、現在65才ですがますます上がってきてそうです。この波は公務員にもやがて波及してきます。こうなってくると誰かに依存するわけにはいかなくなりませす。会社に依存せず、国に依存しない自立した人生を計画するしかありません。

自立を阻害するものはお金でしょう。お金の心配をしなくても良い人生を送れたら、どんなに楽でしょうか。お金の心配をしなくても良い人生を送りたい！これが

私の投資を始める動機でした。それを可能にするのが、長期投資です。

団塊の世代を含め、多くの人がそう思っているという事は確かです。銀行に預けても増えない以上、何かしないといけないとみんなが思っていることは事実です。

長期投資というと、いったん株を買って、長年放置しておくと思っている人が多いようですが、それでは相場に勝てません。長年にわたって相場と常に付き合っていくのが長期投資です。

私は五十代の後半ですが三十年間これから先投資と付き合い合っていく覚悟を決めています。三十年間つきあえる理論はないものかと、セミナーや書籍に費やした費用は百万円以上になりますが、実際に株の売買をするとなると、もつと重要なことがあることに気がつきました。相場は、相場に参加しているみんなの感情（アストラル体）で動いているという現実です。みんなが買うから上がる。みんなが売るから下がる。これだけです。相場を振り返ってみて、専門家は難しそうな理論を並べますが、それで相場の予知ができるかというところできません。

■プロと言われる人にも依存してはいけない

私も株のやり始めの頃はある投資顧問会社と契約していました。自分の判断に自身がもてなかった誰かを頼りたかったからです。丁度、サラリーマンで100億円の給与というタワー投資顧問の話題でもちきりだった頃です。もう忘れやすい日本人は覚えていないでしょうけど。

2005年の前半は経験30年のプロといわれるファンドマネージャーの言う通りに、売り・買いを繰り返し結構な利益が出たのでさすがにプロは違うと感心していました。利益の30%が投資顧問への取り分であり、利益が出ないときは無報酬。こういった契約を良心的だと錯覚したところから失敗への道が始まった。

巨大な損失を被った銘柄があります。インデックスホールディングスと日本通信です。一時は、どちらも50%の利益を出していた銘柄ですが、「もう上がる、も

う底だ」というファンドマネージャーのアドバイスを鵜呑みにしているうちに、大きな損を出してしまいました。ライブドアショック以降、新興市場は今もボロボロですがその典型的な事例です。

私の性格では、20%値下がりした時点で売りたいと言った。しかし、その投資顧問は今が底だから待ったほうが良いと言った。そんなものかと思つて待つていたら、あつという間に株価が半分になつてしまった。途中で何度か連絡をすると、「心配するのはファンドマネージャーの仕事であなただはぼくとしていてください。」と言われました。

株価が半分になつたところで「もう売りたい」と言つたらこれ以上はいくらなんでも下がりませんから。ということ、しばらく持ち続けましたが、下げが止まりません。これはおかしいと思い、投資顧問に相談せず全ての銘柄を売却しました。現在、インデックスホールディングスは4分の1になり日本通信は7分の1になつてしまいました。事後報告で投資顧問に連絡すると、売買報告書が送られてきまし

た。なんでも、金融庁からの通達でどの顧客にどの銘柄をいつ勧めたのかを記録しておく必要があるらしいのです。ここでやっとファンドマネージャーの心理が分かりました。

ファンドマネージャーは、損失を確定すると金融庁への報告資料にそれを明記しなければならぬので、損失の確定を嫌がったのだ。損失の実績を確定されるのを恐れたのです。その後、そのファンドマネージャーは解雇されたようですが、随分高い授業料を払ったものだと思悔しました。その後、その投資顧問会社の社長が担当するからと言ってきたのですが、契約を解除しました。私が莫大の損害を被っても彼らの損害は0円です。結局は、人の金ですから、責任感もありません。

結局その投資顧問と契約している期間、儲かっても、損しても、その理由がわからず、何にも勉強になってなかったようです。もちろん、株を売買するときは、電話で説明を受けるのですが、もつともらしいテクニカルな株式用語を並べて説明するだけなので、身につけていないのです。

プロといわれる人に自分の金をまかせたのが失敗でした。

こんな程度の運用なら、自分でやったほうがマシと気がついて、それから実際に自分で株を売買してみても頭でなく、体で相場を味わうという勉強をしてみました。自分の金で実験してみた結果を書籍にしたわけです。

運用はすべて国際的な優良企業の個別株です。

昔から、

「もう上がるは、まだ下がると思え」、

「まだ上がるは、もう下がると思え」、

「天井3日、底100日」、こんな格言がありますが、どうしても自分の都合の良
いように思ってしまう人間の弱い心理を見事についたものです。

■投資とどう向き合うのか

今後消費税も上がる、年金ももらえない、物価もどんどん上がり、インフレが起きてくる可能性があります。つまり、皆さんの預金金額の価値が下がり、必然的に貯金が減ってくるということになるのです。

さて、投資をする場合、どのような方法で行うのか、テクニカル的な正解は1つではありません。自分のやり方を見つければいいだけです。こうやれば儲かる、こうやれば損をするという方程式はありませんし、人の真似をしても自分には通用しません。性格が違うので無理なのです。ここが重要なところで、本をいくら読んでも勝てないのです。しかし、実際に10年以上相場で勝ち続けている本者の相場師には、精神面での共通点があります。徹底して相手の立場に立つことができる器をもって、いる人が多いという事実です。秘教学的に言えば、メンタル体が良く発達していて、アストラル体を見事にコントロールしています。

そこで、日経の記事を読むときに、その新聞記事が書かれた背景を2つの観点から推測してみます。1つめが、1日に大量の原稿をしあげて印刷に回さなければならぬ記者の事情。あらかじめ、多くの記事のネタになるデータが用意されていないと短時間で新聞を印刷にまわすことはできません。2つめが、日経は財務省や経済産業省の影響を強く受けているということです。つまり、国家の意思が反映されている記事があるという事実です。

新聞記事の読み方。

- ① その日経の記事を書いている人はどんな動機で書いたのか？
- ② 国の意志・意図がその記事に含まれているのか？含まれているのならそれは何なのか？

こんな推理をしてみます。徹底して、相手の立場で考えます。自己中心的なアス

トラル体ではなく、メンタル体をフル回転させます。

自分がもし総理大臣だったら、日経新聞をこのように使うだろうな。自分が国の役人だったらどうするのか。自分が日経新聞の記者なら納期に間に合わせるためにどんな記事を載せるのか？そういった情報を発信する人たちの立場に立って、あらゆる観点から推測してみるのです。

この時に、新聞に書いてあることは「本当かウソか？」という二分思考で考えていると失敗してしまいます。相場をやる以上は、必ず失敗しますので、サラリーマンという定期的にお給料が入ってくるという立場のときに投資を始めて、最低限の生活は確保できる状況を守るべきです。間違っても、引退してから株式の勉強をして資産の運用をしよう、などと考えるはいけません。やるのなら給与収入がある今やるべきです。今ならたとえ100万円がパーになってしまったとしても、やりな

おしげができます。

よく、団塊の世代が退職をして、さあ、これから株でもやってみようなどと考えている人がいますが、これは危険です。失敗を取り戻せない可能性があります。とにかく、一度は必ず失敗します。そこからアストラル体が整理されて、メンタル体が強くなって、更に意志の強さが増し、魂で新聞を読めるようになって、だんだん自分流が出来てくるのです。ですから失敗するのは、ちゃんとお給料が入ってくる今しかありません。小さく失敗して、脳とハートのトレーニングを積んでおくべきなのです。

■欧米の資産運用

金融業界にも1%かもしれませんが、光の波動を持った人がいます。それを見抜

く目も必要になってきます。ヨーロッパでは100年200年という長い年月をかけて長期投資をしている風潮があるのです。その間に、戦争があつたとしても、天変地異があつたとしても、国が亡んだとしても、投資を続け、資産を運用していくというやり方が当たり前だという歴史があるのです。

ヨーロッパには、こういった長期的な投資ファンドがいくつもあり、資産を預けておけば安心だという人が多いようなのです。そういった安心感を与えられる国の基盤があるのです。日本にもこういったファンドをつくらうという動きがあります。また、海外の投資ファンドというのは、誰が運営しているのか、顔写真までがパンフレットに載っているのです。失敗したら、すべての恨みを買ってしまう世界で（殺されるかもしれない）、堂々と自分の姿を載せているのです。ファンドマネージャーは、自己資産の全てを自分のファンドに投入しないと、金が集まらないそうです。

つまり、命がけということです。

日本でも、運用責任者の顔を堂々と出している投資ファンドがあれば、それは本物かもしれません。間違っても、ただのサラリーマンで運用責任者の顔も見えないようなファンドは購入すべきではありません。

■株で損をする人・損をしない人

株で損をするパターンにはまってしまうのは、感情で動く人、つまりアストラル体がメインの人です。アストラル体が強い人は、自分に都合の良い発想しかできません。株が下がったら、最初は「どうしようどうしよう」ですが、そのうち上がるだろうと根拠のない理由で自分を納得させて損を拡大させていきます。株が上がったら、最初は嬉しくなりますが、やがて明日は下がるかもしれないという恐怖心が出てきます。株が大暴落したらもう大変です。投げ売りするか、塩漬けです。1年

に1回ぐらい、株というのは暴落をします。1日に400円から500円下げるときがあります。

すると新聞記事には、株を持っていると危険だという見出しが並びます。この時にあわてて持っている株を売ってしまおうという気持ちが出てしまうと、一番の底で売ることが多いようです。

冷静にメンタル体で考えますと、このような暴落は2年や3年に1回は訪れる、大暴落も数年に一度はあると判断できるので、もつと長い目で見て、冷静に状況の判断が出来るように、意志の力で感情をコントロールするように努力します。暴落が起こる前は、だいたい市場はイケイケムードに浸っています。株価がどんどん上昇して、自己資産が増えてゆくわけですから、投資家はうれしくなります。しかし、喜びの後には必ず悲しみが来ます。上がったも、下がったも、心を動かされてはだめなのです。みんなが上昇気流にのっついて、浮ついているときに、少しずつ売りを始めるのです。そして暴落前にはキャッシュを持っておくようにするのです。そ

して、ひたすら時期を待つのです。半年でも1年でも、時期を待つのです。これがなかなか出来る芸当ではありませんが、狩猟をする時に一番効率のいい方法が待ち伏せなのです。

ただじつと獲物が自分のテリトリーに入ってくるのを待つのです。そして、ようやく株の暴落の時期が来たとします。すると、この時期をじつと待っていた人たちは、暴落で世間が大騒ぎしているときに、じっくりと安値で株を買うことが出来るのです。この時の買い方も、一機に買うのではなく、下がってゆくたびに少しずつ買い増ししてゆくのです。するとある時期まで来ると、反転し始めます。この底をぬけた時に買うのをやめるのです。

こういった大きな波を3回ぐらい経験すると心が動じなくなってきました。どんなに下がっても怖くはない、という心理まで持っていくことが出来ます。3回、こういう修羅場をくぐった人は、もう気持ちが動揺することはないでしょう。「どうしよう・どうしよう」という気持ちが沸いてきません。

こういう買い方をすると資産は、10年でだいたい2倍（複利計算で7%）ぐらいになっていくはずなのです。あまり多くの銘柄に手を出さず、信頼できると思う企業に集中して投資するのが賢明でしょう。経済的自立のための手段には、正解、不正解はありません。大切なのは、自己のアストラル体を消滅させ、メンタル体で思考し、意志の力を養うことです。メンタル体は違いを識別できません。メンタル体は知性を司ります。知性とは、識別力のことです。識別力とは普通の人が見分けられない違いを見つけられる能力です。自分には識別力があるのか、識別力がないのかこんな不毛な考えが浮かんではいけません。自分の識別力が働く分野はどこなのか？を探るのが先決です。

たとえば、私なら車が好きなので、トヨタ系のアイシン精機のミッションがドイツのVW社に採用されたことを自動車雑誌で知ると、アイシン精機は伸びる判断できます。最近のVWのゴルフ・パサートなどは非常に高級感が増してきてちよつと無理しても欲しいと思わせる魅力があるからです。進和という会社がトヨタのハイ

ブリッド車の部品を作っているという記事を読むと、伸びそうだと感じます。車に
関心のない方は、こんなことを言ってもアイシン精機や進和の魅力はピンとこない
でしょう。識別力というのは、このように自分が興味のある分野でしか作用しない
ものです。冷凍食品を頻繁に使う主婦なら、食品会社に対する識別力があるはずで
す。コンビニの弁当を頻繁に利用するなら、コンビニの善し悪しには識別力
があるはずです。つまり、弁当を製造している会社の識別力があるはずです。

ビールが好きな方なら、キリンとアサヒは最近ビール券を廃止したことに気付く
でしょう。サッポロだけがビール券を今もつくっています。サッポロのビール券で、
キリンを買う人も多いことでしょう。サッポロは、調子が良くないはずという識別
力が作用するはずです。

こういう識別力は、職場では訓練されません。職場以外の全ての時間を、どのよ
うに過ごすのかで勝負が決まります。あまった時間ができたから、識別力を訓練す
るのではないのです。誰かの指示に従って動くのではなく、価値を発見するという

生活を自発的にすることで、訓練されます。自分が価値があると思ったら、投資の銘柄にすればいいのです。相場では誰の意見も参考にはなりません。

■おわりに

給与が上がらない、売上げが上がらないなど、生活不安が毎年ちよつとづつ増していませんか？ もしそう感じるなら、投資をスタートさせてみましょう。世界がうらやましがらぐらい日本には優良企業が多いのですから。日本人であるというだけで投資で食べて行けるだけの環境が用意されているのですから感謝しましょう。

日本はバブル崩壊後、失われた20年と言われながらも、政治がダメだと言われながらも、低空飛行のまま内乱もなく穏やかに生き続けていて、企業はどんどん海

外に進出してグローバル化をすすめています。まるで、陽の極と陰の極を通り越して、新しい陰陽融合の文明に移行しているようにも見えます。そして、株価は均衡点から離れた安値のところにあります。だから、ヨーロッパの長期投資家達が、日本の文化、日本の精神に着目しているのです。単に、株価が割安だからという理由だけではないのです。

投資をして利益を出すには情報の源流を探る必要があります。みんなが知ってしまった情報はもう遅いのです。ですから、毎日のニュースや新聞をながめながら、その内部で起こっているエネルギーの陰と陽の変化を嗅ぎ取る感覚が重要なのです。

投資の世界は、10年後も残っている人は10%以下というデータがあります。つまり、90%の人は損してあきらめていくわけです。しかし、この本に書かれているような陰陽の理論を習得すればその10%の勝ち組に間違いなくはいることができます。

このような能力を習得するには、自分自身の内面を深く探ることです。自分自身の内面を深く知ることができると、自分の周囲や社会の内面に流れている陰陽エネルギーも同じ手法で探ることができます。偉大な投資家はみな、自分の内面を深く探求しており、まるで悟った僧侶のようです。

損するとか得するとかで右往左往することはありません。ここだと思ったときに、猛烈に買い込み、あとは下落しようが上昇しようがのんびりしているものです。そして、なによりも常に平安と安らぎに満ちており、慈愛に満ちており、ざというときにはビジネスに徹することができます。

自分の内面を探るには学問としては運命学がもっとも合理的です。それを実践的に理解するには二つの方法があります。一つは観照の道です。社会との縁をすべて切って、自分の内面を見つめる方法です。エゴはすべて社会との接点から創造されるからです。

もう一つがタントラの道です。これは、異性との人間関係で自分のなかの陰の部

分と陽の部分を統合する方法ですが、本気で異性とぶつかりあい、憎みあい、愛し合い、エゴを溶かしていく手法で現在の日本ではもつとも効果的です。詳しい技法は当社の他の書籍に紹介してあります。

投資で勝とうと思ったら普段の生活から考え方を勝てる投資家的な感情や思考に変えていかないとなりません。間違っても経済の勉強などしてはいけません。勉強するなら国が発行しているもの（紙幣や債権）が信用できるのか？国の今のシステムが信用できるのか？他に国よりもっと信用できるものはないのか？世界中の人から必要とされている商品やサービスを提供している企業はどれなのか？こういうのを勉強したほうがいいです。